

第二十番 誓願寺の御詠歌 (到浄調)

松 濤 基 作曲

♩ = 40~50

mp *mf*

○ × ○ × ⊗ × × ○ × ○ × ⊗ × ×
 (詠頭) ご — — く ウ— (斉唱) ら — — く ウ— —

mf

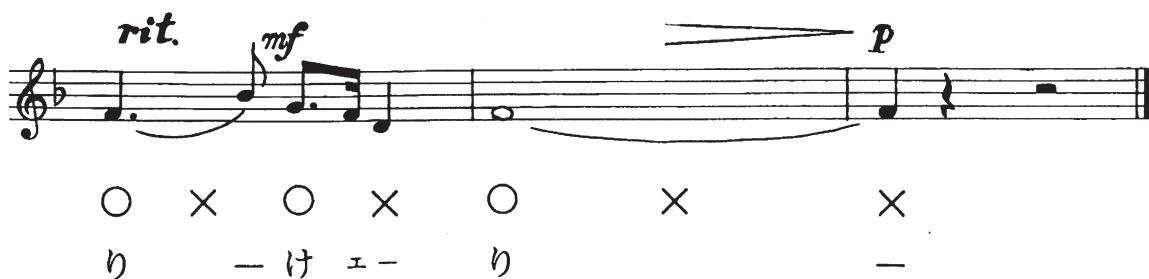
○ ⊗ ⊗ ⊗ ⊗ ⊗ ⊗ ×
 は は — — る — — — け — — き

mp

○ × ○ × ○ × ○ × ○ × ○ ○ × ×
 ほォ — ど と き き-し か— ど つ と め て

f

○ ○ × × ○ × ○ × ⊗ ○ × ○ ⊗ ⊗
 い た— る と こ —ォ — — — ゾろ — — オ な



第二十番 山城の国 京極 誓願寺

極楽は はるけきほどと 聞きしかど つとめて至る 所なりけり
(伝) 空也上人御作

誓願寺は浄土宗西山深草派の総本山です。保元元年（1156）法然上人24歳の時、嵯峨の清涼寺での7日間の参籠を終え、南都へ赴かれました。そこで法相宗の蔵俊僧都と法談され、この時53歳の僧都は上人の智慧の深いことに感嘆し、直ちに弟子となる礼をつくされたのです。僧都は誓願寺の第21世でしたが、お念仏に帰依され浄土宗とし、上人を第22世中興開山と仰がれました。このお歌は空也上人（903～972）御作と伝えられています。

大意 私にとって極楽は、十万億土のはるか彼方で、往生できるような修行も善根功德も積めない、手の届かない存在と教えられていました。しかし、そうではないのです。早く発心し今からお念仏に励みましたならば、阿弥陀さまの本願力で誰でも即座に往生できる所なのです。

ポイント注意

- 「ごーくうー」の「く」は力強く短く止め、「うー」と軽くうける。
- 「ほーどと」の「ほ」を押さえて、「おー」にアクセント。
- 「つとめて」のリズムを強調します。